

**製品名: DAPK3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09789**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DAPK3
別名	DAPK3; ZIPK; Death-associated protein kinase 3; DAP kinase 3; DAP-like kinase; Dlk; MYPT1 kinase; Zipper-interacting protein kinase; ZIP-kinase
遺伝子 ID	1613.0
SwissProt ID	O43293
免疫原	抗血清はヒト DAPK3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

**背景**

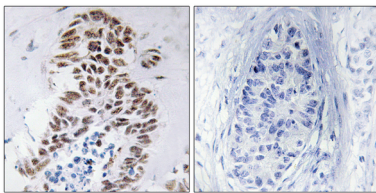
細胞死関連タンパク質キナーゼ 3 (DAPK3) は、哺乳類細胞で過剰発現すると、アポトーシスの形態変化を誘導する。これらの結果

は、DAPK3 がアポトーシス誘導において何らかの役割を果たしている可能性を示唆している。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。機能: アポトーシスの正の調節因子として働くセリン/スレオニンキナーゼ。有糸分裂中にセントロメアのアヒストン H3 の「Thr-11」をリン酸化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。DAP キナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: PAWR に結合すると細胞質に移動し、複合体はアクチンフィラメントと相互作用すると考えられる (類似性による)。前期から後期にかけてセントロメアに結合する。サブユニット: ホモ二量体、または ATF4 とヘテロ二量体を形成する。どちらの相互作用にもロイシンジッパードメインが損傷していないことが必要であり、完全な酵素活性を得るにはオリゴマー化が必要である。DAXX および PAWR にも結合し、おそらく三量体複合体を形成してカスパーゼ活性化に関与する。AATF および CDC5L と相互作用する。、

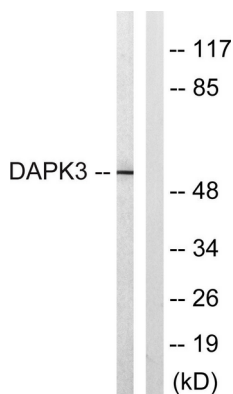
## 研究分野

がんの経路;膀胱がん;

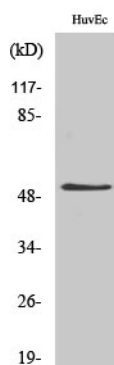
## 画像データ



DAPK3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



DAPK3 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



DAPK3 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析